

資料 3-2

平成 29 年度 各区の地域課題の解決に向けた取組状況について

全体連絡調整会議での事務局提案

| | |
|--|---|
| <p>テーマ</p> | <p>障がいのある児者の余暇活動等でプールが利用できなくなっている課題について</p> |
| <p>概要 (課題となるポイント)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・市内特別支援学校（知的、肢体）で夏休みのプール開放が相次いで中止され、移動支援を利用したいというニーズが多い ・移動支援事業として、プールの活動については、プールまでの移動、プール内では入場、着替え、排泄、シャワー等の支援は可能だが、プール内での支援は認められていない。 <p>障がいがあるためにプールが使えないことは、障害者差別に繋がりがねない（浅い所で遊ぶなどの場合など安全面で配慮することを条件に認められているが、実施事業所はほとんどない）。</p> |
| <p>詳細 ・現状分析 ex. 相談事例（相談者の声） 既存のサービス 既存のデータ</p> | <p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学齢期や学校に関する相談をどこに相談していいか保護者が知らないため、各区の相談支援事業所からは、この課題についての提案はないが、障害者団体との話し合い等において、社会参加の機会を増やす意見の中で、具体的な課題として挙がってきた。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校でのプール取りやめにより、夏休みのプール支援のニーズが高まっている。（支援級のある小中学校でも同様の状況である。） ・障がいのある大人には、余暇支援としてのプールの利用に関する支援・サービス等手段がない現状がある。 ・市内の移動支援事業所、一部の利用者（知的障がい）に聴取したところ、「移動支援でプールの中までの支援」をする事業所はなかったが、スーパ-銭湯などの扱いは、一部の事業所では条件をつけて実施しているとのこと。 ・市立プールでは、「初心者障害児水泳教室」を実施しているが、募集人数も少なく（1コース5名で3回2組）、開催頻度も少ない。（年1回）7月末時点で今年度は募集を終了している。 |
| <p>事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組み ex. 市場分析（環境分析） ニーズの把握</p> | <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 特別支援学校でのプール利用の取りやめを福祉サービスで補う必要性を検討（利用ニーズ調査、対応できる事業所の調査、対応できる支援員の育成について等） ② 学校での利用ができない場合の代替案を複数提案する必要がある <p>【他市の事例】</p> <p>金沢市：移動支援ヘルパーが救急救命講座を受講していることや、事業所の保険がプールでの活動をカバーしていることを条件に、移動支援の給付を認めている。</p> |

| | |
|------------------|--|
| | |
| <p>解決策や今後の方針</p> | <p>【解決策案】</p> <p>① 市立プールでの、「初心者障害児水泳教室」は好企画であり、開催回数 増を自立支援協議会から求めている。また、教室の参加にあたっては、 移動支援サービスを利用しヘルパーが付き添うことで、障害児者がより安全 にプールを楽しむことができる。金沢市の制度について詳細を調査するととも に、プール管理者との話し合いにあたっては、障害児者への理解や、一層使い やすい環境づくりについて、あわせて理解を求めていく。</p> <p>② 学齢期の相談をする場として委託相談事業所（市内11ヶ所）がある ことを保護者に徹底し、地域での生活で相談があれば必要に応じ、ケース会 議を開催する。</p> |